

令和5年第1回加西市教育委員会会議録

- | | | | |
|---|------|--------------|---------|
| 1 | 開会日時 | 令和5年1月25日(水) | 14時01分 |
| 2 | 閉会日時 | 同日 | 16時10分 |
| 3 | 開催場所 | 市役所 5F | 大会議室 |
| 4 | 出席者 | 教 育 長 | 民 輪 惠 |
| | | 委 員 | 沼 澤 郁 美 |
| | | 委 員 | 楠 田 初 美 |
| | | 委 員 | 中 川 和 之 |
| | | 委 員 | 深 田 英 世 |

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会課長(未来型児童館担当)	
	井 上 英 文
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移りました。

- 6 付議事項

議案第1号 令和5年度教育の重点の策定について

議案第2号 加西市子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例の制定について

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第1号 令和5年度教育の重点の策定について

(教育総務課長の説明) 令和5年度教育の重点の策定について以下のとおり策定したいので、委員会の議決を求めます。教育の重点は加西市教育振興基本計画の概要版として位置づけられ、市民の方に加西の教育を理解していただくため、またそのよさをアピールするために、毎年作成しているものです。第3期加西市教育振興基本計画は令和3年度よりスタートし、令和5年度には計画の3年目となります。

今回の主立った変更箇所をご説明します。3ページ下から四つ目の中点「公私立園がともに質の高い教育・保育を実現していくため」という文のところで、前回まで「幼児教育アドバイザーによる実践、指導を行います」としていましたが、このたび「県の施設監査と連携を図り、適正かつ効果的な指導監査を行います」と改めています。

4ページの最初の中点では、「きめ細かな指導によって、基礎基本の定着を図ると共に」という新たな語句を加え、挑戦する力は Challenge、協働する力は Collaborate、創造する力は Create という英字表記を入れ、さらに次世代型人材のところでは(3C人材)を新たなキーワードとして入れました。その下には、「一人一台端末やSTEAMLabo.の活用により、すべての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを推進します」という新しい文を入れております。一つ間を置いた「体力・運動能力の改善や向上」というところでは、「豊かなスポーツライフを実現し」というフレーズを入れてあります。その下の「特別な支援を要する園児児童生徒の特性を的確に把握し」のところでは、「保健・福祉・医療・労働等の関係機関との」という言葉も新たに加えております。

それから、5ページの真ん中あたりの「小中連携教育を充実します」では、「小小連携教育を充実させ、小規模校における課題の解消、緩和を図ります」を新たに加えました。それから、一番下の中点では「コミュニティ・スクールを推進し」ということで、「コミュニティ・スクール」という用語を新たに重点に入れ、下に注釈を設けています。

次に、6ページの二つ目の中点では、これまでの会議の内容を反映するため、『「公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会」の報告内容を踏まえ」というフレーズを新たに加えています。それから、図書館のところの下から四つ目では、「スマート図書館システムの導入により、公共施設・学校との連携を強化し」という言葉を新たに加えています。

教育委員からの意見と担当課長の回答

- ・ 2点ばかりお聞きします。まず、4ページ基本方針のところ「一人一台端末やSTEAMLabo.の利活用によって」という文言があります。今はそれでいいと思いますが、今回、公民館にもSTEAM Labo.を入れて小中と公民館連携ということで、6ページ「生涯にわたる学習の充実」のところ、STEAM Labo.による新しい学びの推進というのを入れたらいいのではないかと一つ思いました。せっかく小中学校、公民館にSTEAM Labo.を入れたのに、公民館には記述がないのはどうなのかなということで、少し検討していただきたいなと思います。

あと、少し戻りますが、5ページ「小中連携教育を充実します」のところ、小中連携あるいは小中連携を充実させていくことが書かれています。これはずっと言っていることですが、幼小連携はどうなっているのかなと思いました。STEAM Labo.は小学校、中学校、公民館には入りましたが、こども園はどうなっているのでしょうか。こども園のほうにもSTEAM Labo.など、何か予算を考えておられるのであれば、お聞きしたいと思います。教育の重点とは若干離れるかもしれませんが、幼小連携も重点の中に含めていくべきではないかと思えます。

この2点を教えていただきたいと思えます。

(生涯学習課長の回答) 1点目の公民館については、STEAM Labo.関連の文章があるほうがいいというご意見ですね。公民館・オークタウン加西あり方検討委員会についての文の中で、STEAM Labo.のことも包括していましたが、STEAM Labo.は教育委員会全体として掲げて取り組んでいるものですので、ご意見については再考したいと思います。

(教育総務課長の回答) 公民館・オークタウン加西あり方検討委員会の文の中で、照明LED化等の環境整備ということにしていますが、そうした広く未来志向の表現に変更が可能であれば、そのようにご意見を反映させていただきたいと思えます。

もう1点の幼小連携についてですが、その重要性は委員ご指摘のとおりです。実際、3ページ大きな見出しにおいて、「小学校への滑らかな接続と発達や学びの連続性を保つ連携を推進します」ということで掲げており、Labo.に限らず教育全ての関連で連続性を目標に取り組んでいますので、教育の重点についてはこれでいいのではないかと思えます。しかし、こども園においてソフト面でSTEAM教育に取り組んでいくかについては、重点とは分けてこれから考えていく必要があると思えますので、こども未来課長と話をしながら進めていきたいと思えます。

- ・ 私はこども園、小学校、中学校、公民館と、先を見据えてやっていくことがいいと思えますので、検討のほうよろしくお願ひします。

(こども未来課長の回答) 補足ですが、幼小連携の取組の回数については、教育の重点を受け点検評価のほうで、5年後には11校と何回するという目標を挙げています。

- ・少し気づいたことですが、3ページ「小学校への滑らかな接続」のところで、最初に出てくる項目が「園職員と小学校教員の合同研修」、二つ目に「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を念頭に置いたアプローチカリキュラム」となっていて、振興計画では「STARTカリキュラムへの接続」というようなこともあります。これについては順番の問題で、子どもの育ちが上に来てほしいなと思います。いきなり研修ではなく、先に子どもたちにはこういうふうに育ってほしいというものを置いて、下に研修という順番に入れ替えるだけで、大分イメージが変わってくるのではないかと思います。

同様の点ですが、4ページの「児童生徒の成長を支える学び」というところでは、ここでも教員研修についてずっと書いてあり、下のほうに「家庭の教育力」、そして一番下に「児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくり」という順に書かれてあります。ここについても、やはり子どもたちを中心に据えた一番下の文を最初に持ってきて、その後に家庭教育について、そのための礎として教員研修をしっかりとやっていくというふうに順番を入れ替えたらイメージが変わってくるのではないかと思います。

それから、5ページ「小中連携」のところで、振興計画には「小中連携」と書いてありますが、中には「小小連携」という言葉が出てくるので、それも小中連携、小小連携として併せて書いてもいいのではないかと思います。ただ、これは振興計画との整合性もあるとは思いますが。それから、未来の学校構想検討委員会の中で「学園構想」という言葉が出てきますので、小小連携のほうへ入れるのは早いかなと思いつつ、それに向けて取組を進めていくというようなことは入れてもいいのかなと思ったところです。

(教育総務課長の回答) 記述の順番についてはより効果的な並べ方に変更したいと思います。小小連携や学園構想については、学校教育課と調整しながら表現を改めたいと思います。

- ・3ページ「小学校への滑らかな接続と発達や学びの連続性を保つ連携を推進します」の最初の項目で、園職員と小学校職員の研修等を実施するということが書いてあります。一方、今回の点検評価ではもちろん先生方の研修もそうですが、幼小連携促進に向けた交流活動の回数を目標にしており、令和5年度は回数を今までより増やした15回、将来的に令和7年度には全部にいける22回にしています。それで、合同研修だけではなく、幼小連携促進の充実に向けた交流活動についてもここに入れられるほうが、点検評価と則してくるのではないかと思います。

もう1点は6ページ「生涯にわたる学習の充実」の「生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり」のところで、中点1と2で公民館の講座や公民館を利用しやすく

しますということが書いてあります。これについても点検評価の取組内容では、住民のニーズを的確に把握してそれぞれの年代に応じた学習機会を設けるということが取組内容ですので、文言として入れたほうが連携して分かりやすいと思われました。(教育総務課長の回答) ありがとうございます。今回、点検評価は先に当初目標を整理しましたので、担当課と調整し、それとの整合を図るような、なるべくマッチするような表現に改めさせていただきたいと思います。

- ・教育の重点と点検評価の統合性がつくと、今後、点検評価をするに当たって見直し等がしやすくなると思います。ご検討をよろしくお願いします。

議案第2号 加西市子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例の制定について

(こども未来課長の説明) 加西市子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例を別紙のとおりに制定したいので、委員会の議決を求めます。これは第1条及び第2条第1号中の「第77条第1項」を「第72条第1項」に改めるものです。

今回の改正の理由は、こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律の施行に伴うもので、関連する法律である子ども・子育て支援法に条ずれが生じるためです。そもそも子ども・子育て条例では、内閣府に子ども・子育て会議を設置するようにとされてきました。しかし、今回の改正において、子ども・子育て会議に替わり、こども家庭審議会というものがこども家庭庁に設けられることとなりました。そのため、子ども・子育て会議についての条文72条から76条が削除され、繰り上がって77条が72条になります。なお、各市町村の子ども・子育て会議については、「審議会その他の合議制の機関を置くよう努める」となっており、従来どおり加西市教育委員会内部に設置されます。それで、本来の条例の趣旨に変わりはありませんが、法令改正による条ずれが生じたため、条文の一部を改正することになりました。

9 議決事項

議案第1号 令和5年度教育の重点の策定について

原案どおり可決

議案第2号 加西市子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例の制定について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

12月19日の前回の定例委員会以降について報告します。

まず、1月21日には公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会が開かれました。回を重ねるごとに、委員さんから問題意識が具体的に表明されるようになりまして、大変前向きでよい会議になってきていると感じます。そろそろ提案文書をまとめていただく段階に入っており、それが出ましたらご報告しますのでご検討よろしくお願います。そこで出された前向きな良い意見をどう施策に落とし込み実現するかが、我々に問われていると今思っています。

そして、12月22日は12月本会議最終日でした。皆さんもご存じのとおり西村市長は次の選挙には立候補しないこと、また副市長の河尻さんに後継を託すということを発表しました。それで、河尻副市長はこの日付で副市長を退任されました。私の理解では、デジタル田園都市国家構想を初め、SDGs 未来都市プロジェクトや大変巨額な交付金を頂くことになっている脱二酸化炭素プロジェクトにおいて、プロジェクトリーダーを務めたのは河尻副市長であり、加西市が国や企業と直接やりとりできるようにされてきた方だと認識しています。もちろん現場の人たちも頑張ったわけですが、だからこそ西村市長が河尻さんを後継にと言われたのは、至極当然のことだと思いました。

私はこの2年半の間、教育長として前向きな教育施策を様々に打ち出してきたつもりです。それは市の三役である市長や副市長にもきちんと理解して受け入れていただきました。それがあったので、現場もそれを受けて実現に向かって走ってくれたからこそ、短期間に他市からも目を見張られるような動きができていますと実感し、大変感謝をしています。加西市教育委員会はコロナの3年を経て、今新しい未来に向かって踏み出している最中だと強く実感しています。市長が代わってもできればこの施策を継続して、一貫して未来をつくっていきたくないと望んでいます。

12月24日には、ワークショップの開き方講座がアステリアかさいで行われました。もっと市民のグループ活動を活性化させないといけないという思いで、社会教育委員や元公民館長が、生涯学習課の助っ人として「生涯学習支援ネットかさい」を立ち上げていただきました。そして、例えばグループでワークショップを開くにはどうしたらいいのか、市の助成を得るには何が必要かなど、初めの一步を踏み出すための現実的な課題解決の相談に乗ってくださっています。第1回目はアステリアかさい3階 OA ルームで、1月15日に相談が開始されています。もしお知り合いで「やってみたいけれど、どうしたらいいか分からない」という方がいれば、ぜひご相談されるよう情報提供をしていただけるとありがたく思います。

12月26日には人事交流面接がありました。これは加西市内の学校へ転入を希望している教師との面接です。他市の教育のあり方を体験してこられた教師が、加西市に来

て、もともと加西市で働いている人と交流をしながら、少し違う風を運んでくださるのは、とてもいいことだと思っています。これからもぜひそういうことが活発に行われるといいなと思います。

そして、12月28日には臨時議会が開かれました。まず、そこでは交付金事業額を誤ったミスに関して、市長給与減額と職員10名注意処分について報告された上で、議会にてお認めいただきました。もう一つは、河尻元副市長の後任を新たに前田副市長にするという人事案が提出され、承認されました。

そして、28日は御用納めだったのですが、12月29日朝8時から新副市長の辞令交付式が行われました。「29日になっても出勤するんだ。」と私は思いましたが、市長としては「1日も空白は許されない。この半年間全力疾走いたします」という決意表明でもあり、現実的な手当てとして新副市長を1日も早く辞令交付したいということでした。それで、29日朝8時から前田新副市長の辞令交付式が行われました。新副市長は大変いいご挨拶をなさったと思います。

そして、1月1日には新春のつどいがありました。朝5時半に家を出まして、アラジンスタジアムに行きました。まだ真っ暗で寒い中、もうめちゃくちゃ眠たかったですけど、大きなたき火を囲んで集まり、徐々に昇ってくる初日の出を拝するのは本当にすばらしいものでした。それこそ私の眠気も寒気も飛んでしまうぐらい大変美しい初日の出を見て、「こんな初日の出が見れるなんて、加西ってすごいところだな」と思いました。ご存じのとおり私は車椅子ですので、山に登ることはできませんでしたが、下から見てもすばらしい初日の出でした。本当によかったので来年はぜひ皆さんも。

そして、1月9日には本年、第1回定例校長会が行われました。実は、校長先生方の中にも濃厚接触者など広がり始めるかなという心配がありました。しかし、皆さんお元気で校長会を開くことができました。夕方には新年交歓会に出席をいたしました。多くの国会議員、県会議員、市長が出席し昨年より少し多い人数で交流ができ、大変よかったと思います。

1月8日には二十歳の会が行われました。こういう言い方は何ですが、皆さん徐々に非常におとなしくなってきたという感じがしました。もちろんお祝いでの場での礼儀などいろいろなことがあります。実は個人的には「二十歳なら少しぐらいやんちゃする子がおってもいいのと違うのか」とも思いました。やんちゃなまま私ぐらいの年まで一生やんちゃできる人はいないわけだから、もっとおおらかに「やんちゃしてもいいのと違うのか」と私は内心思いますが、「みんな行儀よくなったな」と思いつつ出席しました。とはいえ、やはり若い人の集まりは華やかでいいものです。

同日19時から西在田にある東光寺の鬼会式が行われました。加西市の北部の西在田で、しかも夜ということで、こちらは正真正銘とても寒かったですが、本当にすばらしい伝統行事で、室町時代から続くという文献もあるそうです。室町時代あたりに現在の形に整えられた能の中に、「能にして能にあらず」と言われる「翁（おきな）」が

あり、その中に狂言師の舞う「三番叟（さんばそう）」があります。それはほぼ田遊びと同じようなもので、田を耕して稲を蒔くという農耕の豊作を願うものです。今は劇場で演じられるので洗練された芸能になっています。私は東光寺の「田遊び」を見せていただいて、「三番叟の原型はこういった田遊びや鬼会にある」と実感しました。また、その鬼会は火をたいて、神の依代（よりしろ）の鬼の花を作ってその年の幸せを願うということで、奈良の東大寺二月堂のお水取りとほとんど一緒だと思いました。その二つともがこのように加西市に伝承されているということは、とても素晴らしいことです。できれば教育委員会としてももう少しきちんと保護や支援を行いながら、市の外にも発信していきたいと思っています。

翌1月14日には、加西シニアクラブ会員研修会が開かれ、山下会長からのお招きでご挨拶の機会をいただきましたので、「加西市では、教育委員会も未来に向けて本当に前のめりに全力疾走しているところですので、皆様のご理解とご支援をお願いします」というようにお話をさせていただきました。

そして、その日の夕方、西神中央で開かれた「学校のみらいを考える会 in 関西」に出席しました。その日のメインイベントは「夢みる小学校」という映画の上映でした。実は、私は、出席を迷っていたのですが、深田教育委員さんをお願いして一緒に参加してまいりました。そして、本当に行ってよかったと思います。

私も民間から来て、学校のあり方に対してはいろいろな疑問を感じたり、夢を描いたりしているわけですが、この映画に出てくる「きのくに子どもの村学園」というのは、堀さんという一人の先生が40代後半か50代ぐらいに、「理想の学校をつくりたい」という自分の夢を実現され、文科省からも認められている私立学校です。なお、「夢みる小学校」は3月25日に上映会を行いますので、皆さんにもぜひ参加していただきたいです。そこでどういう教育がされているか、どうすれば自立した子どもたちが育つのかという映像を見ていて、私は本当に胸を打たれました。でも、深田教育委員さんは「実は、加西の学校でもうやっていることもたくさんありますよ。そういう視点でやっている」と表明していないので、そう見えないだけで、実は加西でも一生懸命やっていることもたくさんありますよ」と教えていただきました。それで、「じゃ、ぜひ加西でも」と思いました。

そこに私を誘ってくださった元教師で加西市民の女性が中心となって、3月25日にアスティアかさいで上映会をしていただくことになりました。ぜひ先生方にも、子どもたちにも、保護者にも見ていただきたいです。発達障がいの子どもや不登校の子どもの保護者さんとか、心の悩みを抱えて苦しんでいる方々も含めて、大変勇気づけられるドキュメンタリーだと思います。ぜひ多くの方々に見ていただきたいと思います。

1月11日から16日は校長面談が続きました。それぞれの校長先生お1人お1人に、本年度の教育目標の達成具合、またそれに基づいて来年度どういうことを目指そうとされているかなどを伺いました。直接お話しする機会は本当に大事だと思っています。

1月20日には朝から株式会社 steAm という会社の代表・中島さち子さんとお話ししました。彼女は株式会社 steAm の経営者でもあり、東京大学を出た後、ジャズピアニストをされ、また数学教育者でもあるという大変マルチな方で、まだ40代だと思います。うちの STEAM 専門員や教育総務課長はお目にかかったことがあるのかもしれませんが、私も一度お会いしたいと思っていた方です。実はこの方は万博のパビリオンを一つ任されているプロデューサーです。ですから、加西市と STEAM で連携を結んだ上で、万博のパビリオンで加西 STEAM 教育などを含めて展示を一緒にやりたいと言ってくださっています。それは加西市にとっても本当にありがたいことです。

中島さんは、万博は勉強ばかりだけではなく、楽しくないといけないので、「例えばお祭りとかを呼んだりしたいんですが、伝統芸能などは加西市にありますか」というお話になりました。私は例えばこども狂言、サルビアっ子、ひまわりクラブなどの子どもたちの活動、東光寺の鬼会、お節句や龍王の舞など幾らでもありますと申し上げました。彼女はとても喜ばれて「ぜひ一緒にやってください」と言われていました。

これはまだ夢の話で、実現するか確約はできませんけれども、加西市は STEAM 教育と脱二酸化炭素という21世紀の未来型都市として万博に招聘されることに多分なるのではないかと思います。だから、STEAMとして加西の子どもたちとほかの国の子どもたちとで、世界子どもサミットみたいなものをしてもいい、テーマは脱二酸化炭素にしようという話が弾みました。じつはもう加西市の北条東小学校をはじめ各学校ではそれに取り組んでいますとお話しました。堂々とそういうことを発言できる今の加西の教育の実態は、大変誇らしいものだと思いつつ語り合いました。

同日夜には、55周年記念のコンサートをされた世界的指揮者の西本智実さんと来年度のことについて語り合いました。せっかくこうして世界的に活躍している女性たちとのご縁をいただいているので、そのときだけで終わらずに、加西市そのものがもっと発展していくための何かの足がかりにしていきたいと思っています。西本さんからは来年度 STEAM 教育において「音と科学」のようなテーマで加西の子どもたちともっと交流できたらとおっしゃっていますので、何とか実現できるよう頑張りたいと思っています。

1月23日には新規採用教員面談がありました。新卒者も経験者もとてもしっかりと自分の教育観を語れる方たちで、逆に私が若い方たちに励まされうれしく思いました。そういう方たちが担ってくださるのなら、加西市の教育はどんどん前へ進むなと感じさせるような面談でした。

1月24日午前中には、北海道立理科教育センターの研究員が、加西 STEAM の視察のため教育委員会においでになりました。そこで、なぜわざわざ北海道から加西市を選んで来てくださったのかとお聞きしたら、実はほかにも STEAM 先進校というのは埼玉県などにもある。しかし、調べてみると、大学や企業と連携して構想試案も立ち上げている先進地域としては、加西市が一番だと思いました、と言われて、大変うれしか

ったです。加西市教育委員会は、STEAM教育で兵庫教育大学と連携を結びましたし、企業ではPPESや伊東電機さんなどいろいろなところが協働して授業もしてくださっています。そういうことをきちんと見ていらして、「ここをモデルにしたい」と思ってもらえるような教育が加西市でできていることは、本当に誇らしいことですし、これからも頑張らなくてはならないと思いました。

同日お昼前には、地域との食育連携事業として、善防公民館と下里小学校を結んで食育×STEAMの授業が行われました。下里小学校の5、6年生を縦割りの2班にして、地元の食材を使った三ツ星カレーを自分たちで作るというものです。子どもたちが、何回も試行錯誤を重ねながら、最終的にはレトルトにして販売するというモチベーションで作っています。カレー味も2種類あって、一つはかつおだしを使ったカレーでこちらは少し優しい感じ。もう一つはハチみつ入りで少し締まった大人向きの味で、おいしかったです。

一番感心したのは、学校なので生肉が使えないので、お肉の代わりに大豆ビーフを作って、それを牛肉の代わりに使っておいしかったことです。子どもたちは自分たちで工夫をしながら最終的に発売するところまで行きたいと言っており、私は2回目で終わるのかと思っていましたが、「これはまだ研究せなあかんから、もう1回ぐらいやらないとあかん」と子どもたち自身が話し合っていたのは、すばらしいと思いました。地域の方々も助けてくださり、農業の方もレストラン経営の方も来ていらして、複合的な授業になっていました。5年生と6年生の縦割り班なので、5年生ができないことは6年生がアドバイスしていて、なかなかいい取組だと思いました。

同日夕方にはさわやか市民賞の授賞式がありました。九会小学校6年生の藤原瞭希さんが、兵庫県小学校陸上競技会において走り幅跳び4m95の記録で1位ということで、さわやか市民賞を受賞しました。小学6年生で4m95跳んで1位です。藤原さんは何回も大きな大会で1位を取っていて、しょっちゅうさわやか市民賞を受けています。

もう一人は北条中学校2年生の岡蒼依さんで、兵庫県中学校陸上新人大会において同じ走り幅跳びで5m21の記録でさわやか市民賞を受賞しました。これはすごい記録で、「5mってどこからどこぐらいなの。ちょっと測って。」と言おうかなと思ったくらいです。このように加西の子どもたちはみんなよく頑張ってくれています。直前にも絵画でたくさん賞をもらってさわやか市民賞を受賞していますし、加西の子どもたちはすごいです。

その後、教育委員会賞の授賞式がありました。さわやか市民賞というのは1位になることが条件なので、2位ではじかれてしまった子たちには、その代わりに教育委員会賞を出そうということで、第37回女子駅伝で準優勝の北条中学校女子駅伝チームが受賞をしました。神戸新聞にも「びっくり大躍進2位」と出ていたと思います。そういうことで自信がつくもので、皆さんとても明るくて堂々としていてよかったです。

教育委員からの意見

- ・教育長の報告にもありましたが、1月14日夕方、神戸市西神中央ホールで映画を見ってきました。会場に入ったところにフリースクールのブースがたくさん並んでいました。加西市在住の方から「加西市の教育には希望がないなあと思っていたけれど、最近をよく頑張られています。私もこういう教育の活動をしており、こんな映画があるので見に来てください。」というメールが教育長に入ったらしく、誘われたのなら行かなくてはということで、教育長と一緒にいかせていただきました。その中に出てくる「きのくに子どもの村学園」というのは、学園自体は文科省が認めた私立小学校で、カリキュラムも学習指導要領に則っている学校です。

最初は、学校に行きにくくなった子どもや少し障がいがあるということで薬を飲んだりしていた子どもが、自然の中でいろいろな活動をしながらか学習しているというイメージで聞いていたので、フリースクールかなと思っていました。でも、後半に先生方が「いや、文科省の認定を受けて、きちんと文科省からも認められた学校です」と言われました。「きのくに子どもの村学園」は高等部の専修専門学校が一つだけあるにはあるのですが、一応中学校までで、卒業のときに子どもたちが、自分がここに入ってきた当時はこうだったけど、ここでどんなふう成長したということ自分の言葉で話して後輩たちに伝えています。どうしたらそこまで変わるのかと、教育長とも話しました。

でも、加西 STEAM の中で子どもたちも、加西の教育も今変わってきています。先ほど下里小の話も出てきましたが、子どもたちが考えて「こうしたらいいんじゃないか」とか、「加西市にはこんな課題があるぞ」というようなことを話し合ったりするところで、ほかの学校のまねというわけではなく、加西市の教育をもっともっと充実させていくいろいろなヒントがあるのではないかなと思って帰ってきました。加西でも今やっていることはたくさんあって、だから加西を否定するのではなく、逆に「こうしたらもっとよくなる」や「いや、ここはよく頑張っている」ということを改めて確認する意味でも、この映画を見るのはいいことではないかという感想を持ちました。教育長のお誘いでいい会に出ることができたと思います。

こども未来課長

保育士等発掘にかかるアンケートについて報告します。12月初旬に保育士等発掘にかかるアンケートのお願いとしてアンケート調査をしています。教育委員の皆さんからのご提案に沿った内容として全部で14の問いを行いました。まず、回答数については、発送数614の回答123で約20%の回答率になっています。回答者については大方年代ごとに回答いただいている様子が伺えます。ここから60代未満の500名程度の方が就労の期待できる数字として伺えるかと思えます。

問2の「現在、幼保園で仕事をされていますか」では、74%の方に回答いただきました。勤務先については加東市が一番多く、南東に向かわれる方が多いことが見受けられます。市外で勤務される理由については、一番多かった回答は「市外での勤務を希望していた」ということで、ほかに「就労時間が希望にかなっていない」、「給料や福利厚生がよい」という回答もあります。「園に就労されない理由を教えてください」という問いには、「他業種で就労中」というところでした。今、就労を希望しない方で「保育に携わる仕事を希望されますか」という問いには、「他業種に勤務しているのほぼ希望しない」という方が多いことが見受けられます。それから、保育に携わる仕事を希望しない理由については、「体力的に不安」ということや給与面、「責任が重い」などが多く、その次に「家庭との両立が難しい」という回答も多くありました。

保育士にアンケートを取りましたので、「幼稚園教諭の免許はお持ちですか」という問いには、74%の方が持っており、23%の方は免許を持っているが更新をしていないとの回答でした。保育士の方については大方幼稚園教諭の免許も持っておられる方が多いようです。もし補助があれば免許を取得したいという方は63%で、半数以上の方が取得できれば持ちたいと思っているようです。

次に、令和3年度から実施した保育士の定着一時金制度を聞いて知っていた方は半数いました。また、保育所等で働く方のお子さんは優先入所できることを知っていた方は40%でした。最後に、子育て応援5つの無料化については80%の方が聞いているということで、その辺は大方浸透しているという結果が出ています。

さらに、どんな施策があれば保育の仕事をしよと思うかという問いでは、給料アップや福利厚生の充実、また職場環境の充実が一番多い回答になりました。それについては一番後ろに自由記述でたくさん記載されていますが、いろいろな要望や思いの言葉も含め、職場環境の改善と待遇の改善というところでした。

今後、このアンケート結果を受けた保育士確保対策ですが、待遇改善については一定国の制度もありますし、こども家庭庁ができれば予算倍増という中で処遇改善が恐らく進んでいくものと思っています。また、市の単独補助で運営費補助をしている部分については継続していきたいと考えています。保育士確保については、前回も補助メニューを増やし社宅補助や定職一時金の上乗せを行ってきました。今後、絶対的に保育士が不足するようであれば、保育補助や保育士免許はなくても保育士の周辺業務を補助するようなどころで支援をしていきたいと考えています。

もう1点、保育教諭の就業体験について報告します。保育士教諭大募集という就業体験の案内も併せて同封しました。この体験就業についてのお誘いをしまして、最終集約はしておりませんので推定ですが、今のところ問合せは2名、実際に体験された方は2名いらっしゃいました。

教育委員からの意見とこども未来課長の回答

- ・アンケート結果を見させていただきましたが、内容が少し曖昧で何が分かるのかなと疑問に思ってしまうところがあります。それと、最後に保育士さんからいろいろな記述が書かれていますが、そうした保育士さんの思いはご存じだったのですか。

(回答) アンケートの内容については、なかなか回答してもらえないので、携帯 QR コードで入ってもらう方法で、他市の事例も見ながら回答しやすい選択式にしており、最後だけ記述式にしました。他市のアンケートでの質問事項や結果などを見ましても、大方不都合のない内容になっているかと思います。最後の記述式の問いでは、思いをお伝えいただいたところでありがたいと思っています。以前から不満に思われている部分は聞いていることもありますし、無償化して負担が増えたということも聞いています。

- ・保育士さんの不満についてはいつから聞かれていましたか。

(回答) 昨年 10 月からゼロ 2 歳児の保育料無償化になって保育の負担が増えたことは聞いていましたし、そもそもそれ以前から慢性的な保育教諭不足での現場の苦勞を聞いていたところもあります。

- ・無償化など最近の話ではなく、もっと随分前から問題は噴出していたのだと思います。そういうことは聞かれていませんでしたか。それは最近の話なのでしょうか。

(回答) 令和元年、3 から 5 歳児の無償化をされたことが一つのきっかけで、現場の声が大きくなったのだと思いますが、それ以前の私が直接の担当になる前から、いろいろな方から現場の慢性的な人手不足や配置の問題について聞いた覚えがあります。

- ・それを聞かれて何かしようと考えられましたか。

(回答) 国の制度に準じて保育士の確保はしていかなければなりません、今回急速に保育士の確保対策を進めたのには、加西市が独自で先行して行っているゼロ 2 歳の保育料無償化があります。それで、入園できないというのは絶対あってはならないという思いの中、今は私立園に対する確保対策のメニューを出しているところです。過去において公立園では保育士が充足していました。しかし、公立園は縮小して民間園で進めていくという国の方針もあり、今は公立園より私立園が増えています。公定価格という給付金制度ができて、今は公立園の集約と民間園の支援にシフトしていく形で進められています。

- ・問題が発生するまでにもう少し何かできることがなかったのかと思います。私にも反省するところはあり、毎年こども園を訪問させていただいてきて、先生がよく頑

張っておられるので、加西市の子どもたちは本当に幸せだというそしか見えていませんでした。頑張る先生方の姿の裏で、本当にたくさんの大変な思いをしておられる方がいるのだということも、教育委員としてももう少し見ることができたらと私も反省します。

加西市の5つの無料化として子ども医療費、病児病後児保育料、ゼロから5歳の保育料と副食費、学校給食の無料化がありますが、これを無料化してもお母さん方が喜ぶだけで、そこに勤める先生方は本当にしんどい思いをされています。給料は少ない、休みにくい、人手も少ない、労働条件も整っていないという、言ったら5つの無料以外に、ないない尽くしです。もう少し先生方のことも配慮されれば、もっと先生方が加西市に集まってくださるのではないかと思います。

こんなに先生方は大変な思いをしておられるのかと思い、私も少し知人の保育士さんに尋ねてみたのですが、「本当です」と言われました。この頃はお母さんたちも、お子さんも昔と違ってきていて、お母さん方は自分の子どもさんを保育園やこども園に全部丸投げで、子どもたちも家でしつけられていないので、本当に先生方は大変だと言っていました。また、時間内に保育の仕事をする代わり事務的なことは家に持ち帰らないとできないけれど、家に帰ったとしても子どもがいるし、家事もしなくてはいけないそうです。そうして本当に大変な思いで辞めていかれる人が多く、特に若い人がしんどいからと辞めていかれます。それで、私が彼女に「じゃ、何でそんなにしんどいのに今まで頑張っていて続けたの」と聞くと、「いや、この仕事が好きだから続けてこれたんだ」と言っていました。

でも、今の若い方はそうではなく、もっと給料面のことを考えられるのですよね。だから、まずは労働条件や給料面をもう少し考えられたら、加西市にも人は集まってくるのではないかと思います。民間ですが、私の会社では自慢じゃないですけど全てクリアしています。今の時代ですからこれでは本当になんない尽くしで信じられないと思うので、もう少し条件を考えていかなければならないというのが私の思うところです。

(回答) 貴重な応援意見としてお聞きし、改善に努めてまいりたいと思います。

- このアンケートを見させていただき、大変だとは思いますがありがとうございます。補足させていただきたいのですが、このデータとネットに載っていた全国のデータはほぼ同じようだなと思いました。「どんな施策があれば加西市で保育の仕事をしようと思われませんか」という問いについては、先ほど教育委員さんも言われていたように、給料アップの要望が一番多く、その次に職場の充実ということで、この二つが飛び抜けています。これは私からの提案ですが、私もネットや YouTubeなどで、そしてたまたま知り合いの保育士さんがいたのでその方の意見も踏まえて、まず職場環境の通常業務の中でこれを使えば効率が上がるのではないかとこのものを調べ

てみました。多分、加西市ではまだだと思いますが、姫路市さんではICT、タブレット端末を使って業務をされていることに目をつけました。

一人の方のご意見ではありますが、タブレットを使う効果については、一つに家に持ち帰る仕事が減ったということです。今のままだと多くの保育士さんが家に仕事をもち帰っているとお聞きしました。一方、タブレットを使うとどうなるのかと尋ねたところ、以前に比べて家に持ち帰って仕事をするのが大分減ったと言われていました。その方には2歳のお子さんがあり、家に持ち帰ってもなかなか仕事が進まなかったようですが、タブレットのおかげで大分家での仕事が減ったそうです。また、2点目には、保育士さんはいつも親御さんへ帳面を書くのですが、タブレットならさっと打てるので手で書くよりも早く、また合間の時間を見てその場で業務ができるというのも利点だそうです。あと、今問題になっているスクールバスに取り残されて子どもが亡くなってしまうという悲惨な事件ですけど、タブレットを使えば誰が乗っているかを瞬時で確認できるそうです。

私もいろいろと調べてみてそういうもろもろの利点があるというのが分かりましたので、こども未来課のほうでもすこしタブレットやキッズリーだったか、そういったアプリもあるそうなので、少し検討してみたらどうでしょうか。また、ネットでもYouTubeでも分かりやすく解説されていると思います。私は一人の方に聞いたのですが、多分ほかの方たちもタブレットの業務にすることで効率が上がるのではないかと思います。一度考えてみたらどうかという提案です。私もいろいろな意見を聞いたりして情報を集めました。教育委員会のほうでもプラスアルファで調べていただいて教えていただけたらと思います。このアンケートによると職場環境の改善を求める意見は2番目に多いですし、ここでも一人だけではありませんが、ICT導入による業務軽減と書いている方もいらしたようですので、小中学校もタブレットを使っていますし、タブレットによる業務軽減を検討したらいいのではないのでしょうか。

(回答) 市内では公立園も含め、登降園はカードやQRコードで登退を管理しており、システムで一斉配信メールもできます。ただ、先ほど言われた保護者に園の様子をお伝えするやりとりのノートについては、1人1台配置まではできていません。一応、今年パソコンを有線をつなぎ、全部の部屋で業務ができるよう対応しました。今は端末が無線に対応できないことと、まだ更新の時期ではないのですが、今後は無線で更新したいと思っています。

- ・例えばパソコンが3台あって10人の保育士さんがいたら、保育士さんは交代交代で使うような感じですか。それを1人1台にすれば、昼寝の時間などちょっとした合間にできて、すごく効率がいいということは聞きました。

(回答) そうできればいいのですが、今は順番で使ってもらっています。というのも、

ソフト管理料がどんどん増えていく懸念があり、どうしたものかと思っています。

- でも、例えばタブレットを入れたら今の手で書いている業務に比べて時間が短縮できるとか、それで家に仕事を持ち帰る率がどう変わったかとか、タブレットで帳面を管理する利便性や効果というのをデータとして出してみても、どうしていけばいいのかということですよ。加西市の場合まだやっていないので分かりませんが、姫路市とか既に導入しているところに当たってみていろいろなデータを出せるのではと思います。

予算に限りがあるのは分かりますが、ここで「職場環境が給料の次に悪い」と書かれてしまっているのも、そこをよくしてあげたらと思います。家に仕事を持ち帰ることはかなりのストレスですので、少しでも軽減してあげたらと思います。タブレットで仕事の効率が大幅よくなれば、「ここだったら働けるかもしれない」と思ってもらえるかもしれません。私からはタブレットを使った業務軽減があることしか提案はできませんが、私自身もう一度、使っている保育士さんなどに聞いて調べてみますので、事務局でも一度データを調べてから、根拠づけてどう取り組めるかを考えていただければと思います。

- 今、市内のこども園に先生は何人いるのですか。教育委員さんの言われたように1人1台タブレットというのはどうなのですか。

(回答) 公立は約120人で合計約300人います。タブレットは各園1、2台、パソコンは園によって10から20台あります。外せるようなタブレット式のパソコンにして、持ち歩けるようなものがあればと考えています。

- その特徴としては合間の時間を活用できるという利点があります。パソコンが1台を3人で使うとなると、同じようにするのは難しいのではないかと思います。

(回答) 教育委員さんの言われているようなことは考えているのですが。

- ここの「こども未来課に幻滅しました」というのは、読みたくない意見でした。他の教育委員も言われたように、私も4年間教育委員としてやってきて、幅広いところで生涯学習課とこども未来課には結構できていないという言い方はよくないですが、課題が多くあると思っています。そして、これだけ書かれてしまっているわけですから、保育士さんが働きやすい環境を少しでもつくっていかなくてはなりません。まずデータを取って検討していきたいと思っていますので、一緒にやっていきましょう。

- 書いていただいた意見の中で、「1人の保育士が見る園児の数が多過ぎる」とか、

「保育以外の業務も多く、保護者からは無理難題を言われ、十分な給料も貰えずに保育士が疲弊している」とか、「子どもは保育園に預けっ放しで自分で見ようとする保護者が多過ぎる」というあたりの意見が気になりました。私の家族にも保育士免許を持つ者がいますが、「絶対に行かん」と言っていました。というのも、親が無理難題を言ってくるし、預けて何かがあったらそれは幼稚園や保育園のせいだというような保護者が多過ぎるということです。保育園でそれを全部請け負うとなると、もう無理だと家で話をしていました。

やはり家庭でしなければいけないことは、ある程度親御さんにもしていただかなければいけませんし、そういう思いは先生方にも伝えてもらわないといけません。それで、市のほうで保護者に対する啓発というか、そういう方法はないものかなと今考えています。これは難しい問題ですが、そこを全て保育園やこども園で抱え込んでしまうことや保育士さんや幼稚園教諭に全て任すというのは、もう限界が来ているのではないのでしょうか。なかなか解決できる名案は見つからないのですが、そういうことは思うところです。

(教育長の回答) 基本的に教育というのは、学校、地域社会、保護者とですが、その家庭や保護者の果たす部分というのが弱くなってきているというのは確実にあると思います。そういうことへの啓発みたいなものは、やっていかなければならないですね。

- ・問題になっていたこども園における子どもの虐待ですが、テレビで見て「何てひどい先生なんだろう」と思っていました。もちろん犯罪を肯定化するつもりはありませんが、今日書かれているいろいろな意見を見ていて「ああ、もしかしてあの先生方も何かがあったのかな」と思いました。もう少しこども園も変わっていかなくてはいけないのではないのでしょうか。幼児期は子どもにとって一番大事な時期に当たりますので、こども園が変われば本当に子どもたちもよくなっていくのではないかと考えます。

(回答) 年末に緊急の公私立園長会、施設長会を開き、保育協会が出している指導チェックリストを全園の全職員に行い、国が報告を求めたものを今集計しているところです。園長会でも今の教育委員さんのご意見と同じ話が出されました。バスのこともそうですが、現場は非常に逼迫している状況であり、それは把握理解しております。でも、それを直ちにどう改善するかは、今我々も悩んでいるところです。

- ・データを取るに当たってスマホからでも回答しやすい方法でされていて、20%の回答率とはいえ、保育士さんたちの心の声きちんと出ているのではないかと見させていただきました。このデータは例えば私立園に提供するとか、どこかに公表するなど、今後このデータの扱いについて何か考えているのですか。

(回答) 各園に結果は提供しています。公表するかは今考えていません。

- ・もしされるのなら、いろいろな問題を上手にくみながらプラスになるように公表していただきたいと思う。もう1点、先ほどの話で今は有線のパソコンで業務を行っていて、更新時期になったら無線も考えるということでした。ただ、他の教育委員も言われていましたけど、予算の問題もありますが、このほうが良いというときは時期を待たずに早く導入することで、職員の環境改善になると思います。少しでも早く対処のほうをよろしく願います。

- ・有線から無線に変える更新時期はいつ頃ですか。

(回答) 今が何年目か確認できていませんが、更新は5年置きです。無線 LAN は普通の学校の機器を使おうと思っていますが、端末の対応ができていません。予算要望をしていきますが、更新はまだ来年ではありません。

- ・これは調べて予算を出していただきたいです。1分1秒でも早ければ、働いている保育士さんも「きちんと対策してくれている」と思ってもらえるので、教育委員会からそういう意気込みをぱっと出してあげないといけないと思います。よろしく願います。

(教育長の回答) 前々からそういうことは出ていたので、小中学校だけで STEAM Labo. というのではなく、こども園も DX 計画できちんとやってあげたら、先生方ももう少し楽になるのではないかという教育委員のご意見は、きちんと受け止めなくてはならないと思います。

教育委員会課長(未来型児童館担当)

加西市未来型児童館整備基本構想策定業務の進捗状況について説明させていただきます。基本構想策定に当たり市民の意見を聞くため、子どものいる保護者を対象とした2回のワークショップと中高生を対象としたワークショップを1回開催しました。先月の教育委員会では第1、2回のワークショップで出た意見を説明させていただきました。第3回ワークショップは前定例教育委員会の前日でまとめきれいなかったので今回内容について説明させていただきます。

第3回ワークショップは12月18日に保護者を対象として参加者15名で開催しました。その日は子どもたちの考えている未来型児童館に期待する機能や空間の質について、それに追記するように保護者の意見を出し合っていました。お手元に未来型児童館整備基本構想策定業務におけるワークショップでの意見という資料を置いています。これは全3回のワークショップで出た意見全てをまとめたもので、遊び・スポーツの場、学びの場、活動・交流の場、相談・支援の場、その他という分類ごとに

まとめました。前回の報告から記述の順番を変えていますが、内容は変わっていません。

第3回のワークショップでは、第2回で出された中高生が期待している機能に対して保護者から意見を出していただきました。1、2回目では相談支援に関する機能や諸室の意見は少なかったのですが、3回目においては館の諸室においてどんなことをしたいのか、また実際の運用に関する意見や相談支援に関するいろいろな意見が出されました。以前はいろいろな相談ができる場所という考えだけでしたが、今回のワークショップで保護者からは「知っている人には相談しにくい心の悩みを相談したい」、「土日や夜間にも相談したい」、「スマホのアプリで簡単に相談できればありがたい」といったような実際に相談室の機能や運用において考えてほしいという意見が出されました。ほか、遊びやスポーツの場を含めた機能や使い方等についても希望や要望の意見がありましたが、詳細は資料を見ていただきたいと思います。

今後、ワークショップで出された未来型児童館に求める機能や諸室についての市民の意見を庁内検討委員会で検討しながら、行政サイドとして必要な機能、諸室を加えて、実際に入れていく機能や施設等をまとめていきたいと考えています。

教育委員からの意見と教育委員会課長(未来型児童館担当)の回答

- ・今回、相談機能という面でいろいろな意見が出されていますけど、子どもや子育てに悩んでいる保護者にとっては、なかなか学校にも相談しづらい、もちろんスクールカウンセラーの側は守秘義務をきちんと守ってくださっているのですが、スクールカウンセラーに相談するのってというようなことが一つにあると思います。それから、専門家の授業をオンラインでという意見もありますが、これは例えば STEAM Labo. 的なものを施設に取り込んでできると思います。

それから、今校内フリースクールについて検討いただいて少しずつ話が進んでいると思いますが、不登校の相談については未来型児童館の一つの役目だと私は思っています。校内にフリースクールを造ったとしても、なかなか学校に行けない子たちですから、行ける子もあれば行けない場合もあるでしょうから、そういうことをきちんと相談できる場所がどこかに必要だと思います。それを全部入れようとすれば大変なので取捨選択してと言われていましたが、その辺りについては十分検討していただきたいと思います。

(回答) 担当課とも相談しながら考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

- ・私も先の教育委員と同じ意見です。相談支援についてこれだけ親御さんから意見をいただいていますし、フリースクールが学校の中にあるのでは難しいところはあるかもしれません。それで、この保護者の意見を見て、未来型児童館の役割の中にも

フリースクールをどうやっていくかということも入れていかなければならないかと感じました。これを受けてどう進めていくかというのが難しいところだと思います。(回答) その辺りはまた相談しながら考えていきたいと思います。今まだこれを入れるという話はできないので、申し訳ありません。

・私なりに未来型児童館の中でフリースクールを充実させるのはいいのではないかと思います。これは一つの意見です。

(回答) 参考にさせていただきます。

・今、総合教育センターが不登校のことを担っています。教育センターの機能も含めるのか、または教育センターはセンターとして存続するのかといった兼ね合いもあるかと思います。少し手狭な施設になっているので。

(教育長の回答) 要するに皆さんがおっしゃっているのは、不登校の子たちがもう少し自由に行ける第3の場所のようなものを校外に造るべきではないかということですね。皆さんそういうことを言われているのだろうと思いながら聞いていました。不登校の問題はとても重要ですので、そういうことも含めて検討いたします。

生涯学習課長

生涯学習課からは2点ご報告させていただきます。

まず、児童・生徒対象の加西インター産業団地造成工事に伴う発掘調査現場見学についてご報告します。前定例教育委員会で10月29日に行われた中富産業団地発掘現場での現地説明会をご報告いたしましたところ、教育委員の皆様を初めとして、学校現場の先生や市議会議員の方々から、せっかくの機会なので子どもたちに見学をさせてほしいというご要望をいただきました。そこで、開発業者や現場調査の進捗状況等も合わせて検討し、1月17日から27日の短い期間ですが、見学の受入れを計画して各小中特別支援学校に案内をいたしました。

学校行事等の関係もあり、全ての学校から申込みをいただけたわけではありませんが、3校からお申込みをいただきました。1月19日には泉小学校5、6年生58人と引率の先生4人、総合教育センターから2人の先生方が見学に来られています。本日もこの時間帯に泉中学校の見学会が計画されていましたが、天候不良で残念ながら中止になりました。あとは、1月27日に北条小学校の6年生の見学受入れを残すところとなっています。

泉小学校の見学会の様子を簡単にご報告します。子どもたちは遺跡のすぐ近くまで行き、そこで当課学芸員が一つ一つ説明をしました。すると、写真では分からない実際の竪穴遺跡跡の大きさを体感して、やっぱり大きいなと声を上げるお子さんもいました。また、出土した土器の復元を見て、「これは何に使うのですか」と積極的に学芸

員に質問するなど、大変熱心に見学していました。一語一句聞き漏らさないようメモ用紙いっぱいにはいている子どもたちの姿はとても印象的でした。今回の説明会では、中富条理遺跡の現地説明会資料の最後に「発掘調査現場というのはたくさんの人と技術に支えられています」という資料を加え、発掘現場に携わるいろいろな人の紹介とお仕事の内容も簡単に説明しました。当日は、ドローンによる空撮の予定が入っている日でしたので、測量協会のご協力の下、遺跡の空撮の様子やドローン操作を間近で見学させていただきました。

今回は開発に伴う発掘調査ということで、長い期間を取って全ての児童生徒さんに見ていただくということはできませんでしたが、今回の資料の配布や出前講座など、見学できなかった児童生徒さんに向けた公開や提供の方法を検討していきたいと考えています。

次に、加西市公民館登録グループに対する公民館長感謝状贈呈の規程についてご報告します。公民館まちづくり出前講座というのは、平成24年12月から始まり、公民館活動で習得された知識や技術を住民の方々が地域に還元するという取組です。制度開始からちょうど10年が経過し、出前講座も少しずつ定着しており、地域に出ている登録グループさんもたくさんいらっしゃいます。そこで、地域に出向き学習成果の披露や講師を務めるなど、5年以上にわたり社会貢献活動に従事してこられたグループの方に対して感謝の意を伝えたいということで制定しました。感謝状贈呈については以前から公民館長提案があり、生涯学習課もともに協議をしてきました。このことをきっかけに今後の活動の励みにしていただきたいということで制定しました。この感謝状贈呈は、2月5日開催の令和4年度かしの木学園合同特別学習会の場において行いたいと考えています。教育委員さんにおかれましてはお忙しい中と存じますが、もしご都合がよろしければ足を運んでいただければと思います。

教育委員からの意見と生涯学習課長の回答

- ・中富条理遺跡については、定例教育委員会にて埋め立ててしまう前に学校等へ見学の希望を聞いていただけるとありがたいと要望しましたところ、このたび短い期間とはいえ見学を受け入れてくださり、参加した学校の子どもたちが現地で現物を見られたということに本当に感謝いたします。あとは、今も言われていましたように、写真ではなかなか分からないところは、できれば映像として残していただければ、例えば雪で行けなかった泉中の生徒さんも利用いただけたと思います。今後よろしくをお願いします。ありがとうございました。

(回答) 補足ですが、今回STEAM Labo. で360度カメラを導入しましたので、そのカメラで現地の映像を撮影しました。それをどのように加工するか等の課題はございますが、そういった映像も活用していきたいと思っています。どうもありがとうございます

います。

総合教育センター所長

まず、インターネット等の使用についてのアンケート調査結果と分析、またインターネットトラブルから子どもを守るための啓発リーフレットについてご報告します。昨年 11 月に市内全児童生徒に対してインターネット使用等に関する調査を実施し、その結果を集計分析しました。

「自分専用のインターネット端末を持っているか」については、小学校 2 年生で約半数が、中学生では約 8 割が何らかの端末を持っていることが分かります。また、持っている端末は、最近の傾向では制限のあるキッズスマホではなく、通常スマホが多くなっています。使用目的も、スマホは電話機能よりも SNS ツールとして、ゲーム機もオンラインによるチャット機能のついたゲームをするなど、顔を知らない相手と簡単につながれる状況になっています。フィルタリング設定状況については毎年リーフレット等で啓発を続けていますが、設定は 4 割にとどまり半数以上の家庭では子どもたちに使い方が任されているという現状です。

SNS の利用については、中学入学後 6 割以上が使用しています。LINE が最も多いですが、年齢制限のある TikTok やインスタグラムの使用も昨年同様多くなっています。こうしたアプリの使用は保護者の許可が必要で、起こったトラブルは保護者責任となります。年齢制限がある理由は、性的なものや残虐なものが見れてしまうアプリであり、検索してヒットすれば子どもたちがそういう画像を目にしている可能性も高くなります。

ネットショッピングやゲーム課金については、1 か月で 3 万円以上の高額課金の児童生徒も存在します。こうした状況を保護者が把握しているかは分かりません。インターネット上で知り合った人と子どもだけで会った経験については、昨年と大きな変化はありませんが、言い換えれば、小学校 1 年生から出会った児童が今年度もいたということになります。これはトラブルに巻き込まれる危険性が非常に高く、保護者の見守り態勢に委ねられています。

家庭内のネット使用に関する決まりについては、「決めている」の回答は 7 割を超えているものの、昨年より減っています。長時間使用による依存やネットで知り合った人と会うことによるトラブルを防ぐためにも、家庭でルールや決まりを話し合っ子どもを守る必要があります。インターネットやゲームの使用時間については、過半数の児童生徒が自分でコントロールできない状況にあり、小学校低学年からその状況が始まっていることが分かります。

子どもの写真を SNS にアップする保護者は全体的に低くなっていますが、ただ 1 割の保護者には危機意識がありません。投稿された画像はいたずら、アダルトサイト、ストーカー行為や事件等に使用されることが分かっているため、引き続き保護者に対

する情報提供と注意喚起が必要だと考えています。

以上のアンケート結果を受け、今年度のリーフレットを作成しました。ネット使用により児童生徒を犯罪の被害者にも加害者にもさせないため、アンケート結果を基に注意喚起が必要な内容、また身近に起きるトラブルや事件を簡潔に提示しています。特に注意喚起の必要なことをより具体的に理解し、家庭での取組を考えてもらえるように、アンケート結果とそれについての助言を掲載しました。また、昨年同様フィルタリングの設定方法、さらに家庭でネット使用の約束を子どもたちと話し合う方法として、県の作成したワークシートも紹介しています。ネットトラブルから子どもを守るには、まず家庭の教育力によるところが大きいことから、具体的な方法を提示するとともに親子で考える機会を作ってもらえるよう作成しました。

このリーフレットは2月上旬に各学校に届け、市内全児童生徒に配布する予定です。進級機会にスマホ購入が多いことから、毎年、学年末の学級懇談会等で保護者への啓発をし、児童生徒への注意喚起に活用しています。また、新入生説明会では新入生の保護者に助言できる機会であるため、リーフレットデータを各校に送付し入学前の啓発に活用してもらっています。各学校でも毎年 PTA 教育講演会や専門家を招いた情報教育等を行っています。しかし、毎月センターへ助言くださる専門家の方であっても、次々と新しいアプリが誕生するため急速な変化に対応が追いつかないといった現状です。この先、子どもを守るには、「我が子は自分が守る」という保護者の意識なくしては難しい状況にあります。

併せて、最近学校に届いている脅迫メール等についてご報告します。メール内容等の詳細については控えさせていただきますが、1月19日に市役所宛に児童生徒の殺害メールが届きました。翌20日にも同じく市役所宛に小中学校の爆破予告が届きました。これは全国各市町に届いている脅迫メール等が、同じように加西市にも届いている状況のようです。それから、1月24日には県内の高校に、北条高校と播磨農業高校にも教職員と生徒の殺害予告のファックスが届いています。そして、本日1月25日早朝に、今度は市内4中学校宛に生徒の殺害予告のファックスが届いています。速報ですが、確認しますと県内の他の学校宛にも届いていることが分かっています。これら4日も、センターから各校に情報提供をしましたが、児童生徒に対し不安をあおることになるので詳細の伝達は行っていません。各学校には学校安全管理の観点から訪問者や不審者の対応を十分にとること、また登下校の指導や対応をしてもらっています。それから、加西警察や市の危機管理課、総合教育センターのほうで下校時間のパトロールを行っております。現在、4日も具体的な被害の報告は届いていません。

もう1点、校内フリースクールについてご報告します。先ほどのご意見にもあったように、校内フリースクールを進めています。これまでに3回、学校現場の担当者、生徒指導・不登校担当と集まり協議を行いました。その後、学校に持ち帰って意見を聞いていただくようにしています。時間もなく、現実的に全員というのは不可能だと

と思いますが、聞けるところで不登校の状況にある児童生徒たちにも、どういう場所を望むのかという聞き取りをしたいと考えています。

先ほどから教育委員さんの意見で出ていますように、フリースクールの設置場所については、我々教育センターも何度も協議して悩んでいるところです。学校現場の意見を聞いても、現場の教職員もものすごく悩みながら考えています。「学校にどうしても行きたくない子どもにとって、校内は難しいのではないか」というのが一番直結しやすい意見なのですが、実際はそう単純ではありません。教育委員さんもよくご存じだと思いますが、「別室登校をしたい」とか、「少しだけ行きたい」とか、「みんなと会いたくないけれど、本当は学校に少し関わりたいんだ」といった子どもも一定数いるのが事実です。ただ学校が十分に対応できないので、その思いに伝えられていないのが現状です。さらに、不登校生の中には、保護者を含めて「学校に行けていないことを知られたくない」というご家庭は非常に多くあります。そうすると、「公民館などみんなの目につく場所に行くのは難しい」という意見も実は出ています。

前もお話ししたように、どこは駄目とかどうとかではなく、ニーズは全て散らばっていてどこの場所でもニーズがあるということなので、先ほどの未来型児童館で出された意見も含めて、どのようにしてこうしたニーズを合わせていくのか考えていこうと思っています。私は今理想的だと考えているのは、学校から遠く離れたフリーの場所まで、段階的に子どもたちが選択して行ける場所が何か所もあれば本当は一番いいのですが、様々な理由でどれぐらい設置できるかは難しいところだと思っています。今後たくさんのお意見やお知恵をお借りしたいと思っています。よろしく願いいたします。

教育委員からの意見と総合教育センター所長の回答

- ・今、脅迫メールや殺害予告などという大変なことを聞いて絶句しています。そういうことが身近で起きているとは思いませんでした。テレビでもよく出ますが、今はバイト感覚の詐欺や殺害といった犯罪も簡単にスマホで誘われるようになってきていて、こういうことが身近で起こっていると本当に子どもたちが心配です。私たちが子どもにスマホを渡したのは高校に行くようになってからで、「帰りがおそくなるので、しょうがない、持たせようか」ということでしたが、今はどんどん低年齢化してきています。何で親御さんはそんなに早く子どもにスマホを持たせるのでしょうか。

(回答) 各家庭の考え方なので詳しくは分かりませんが、時代的にいろいろなことが低年齢化しているのは事実だと思います。それから、スマホにはデメリットばかりではなく、利点もたくさんありますので、使い方次第だと思います。

- ・学校ではスマホの使い方について1年で何回ぐらいお話しされているのですか。親子で一緒にお話を聞くのですか。
(回答) 全ての学校が同じでないかもしれませんが、面談や懇談会、教育相談の機会には必ずこのリーフレット等でお知らせしています。それから、各学校で情報教育、情報モラル、加害被害の研修や講演等を取り入れています。
- ・面談のときもそうですが、年に何度かしつこいほどでも、全校生徒を集めて親子一緒に話をしていたほうがいいと思います。というのも、本当にだんだんと恐ろしい脅迫や殺害予告なり、テレビで言われるような犯罪が身近に起こるようになっていて、そこに関わってしまったらもうその子の人生は終わってしまうので、どの学校でも一緒になって、早いうちから親子で話し合える場をつくっていただきたいと思います。こんなに怖い脅迫や予告が来ていて、本当に何か起こってからではおそいので、学校も大変ですがお願いしたいと思います。
(回答) その辺りは今までもしてきたつもりですが、今まで以上に何かしなくてはいけないと我々も考えているところです。
- ・このネットトラブルの啓発リーフレットは2月に配られるということですが、特に小学校では先生方から子どもたちに「親に読んでもらえ」とかいうことをしっかり伝えて、必ず親に見てもらえるようきちんと指導してほしいと思います。逆に、中学生ぐらいになれば、これを使いながら生徒たちに注意喚起をしつつ、保護者にも見ておいてもらうよう念押しするようお願いしたいと思います。それから、年度替わりはなかなか忙しいですが、例えば PTA 総会など保護者に集まっていたときにも、学校から啓発していただきたいです。この前、スマホの使い方でもめた中学生が、お母さんを殺したという事件もありましたので、本当に大事な喫緊の問題だと思います。保護者にきちんと伝わるようお願いしたいと思います。
- ・付け加えになって申し訳ないのですが、リーフレットではいつも注意事項やフィルタリングの大切さもきちんと喚起していて、本当によく分かるように作成していただいているのですが、長くなると最後まで読まれない方もいるかもしれません。他の教育委員さんも言われたように、できれば書面だけでなく対面の場でも、例えば総会や授業参観などで口頭にてお伝えするのも一つの方法かと思います。またご検討よろしくお願いたします。
(回答) 学校ではそうした総会や新入生説明会でこれを見せて読んだり、面談でも対面でプリントを配ったり、生徒によっては特にピンポイントでこの部分というのを話したりという取組を続けていますが、再度そうするよう伝えていきます。

図書館長

特別整理期間についてご報告します。加西市立図書館では毎年2月下旬に、蔵書の棚卸しである蔵書点検を実施しています。通常は8日間のところ、今年度はスマート図書館システム導入作業もあり14日間図書館を休館します。それに伴い貸出日数を本、雑誌は4週間、漫画、AV資料は3週間に増やします。休館中は蔵書点検、図書館システムの更新入替え、電子図書館システムの導入、学校図書館システムの導入等を実施します。また、図書館職員向け、学校職員向け、総合教育センター及び公民館向けに、これらのシステムの操作研修をそれぞれ行います。

1.1 協議事項

なし

1.2 教育委員の提案

なし

1.3 今後の予定について

- ・令和5年第2回定例教育委員会 2月22日(水) 14:00～5F大会議室
- ・令和5年第3回定例教育委員会 3月29日(水) 14:00～4F入札室大

1.4 その他

- ・国がコロナを5類に移行するという事で、学校はどうするのかと非常に混乱されているかと思えます。学校から教育委員会に相談がまたあると思えますので、その辺りはよろしくお願ひします。

(学校教育課長の回答) 実は、学校ではコロナもそうですが、インフルエンザのほうがかつ威をふるっています。ですので、学級閉鎖基準等その辺も少し整理しながら、こども未来課とともに対応していきたいと思っています。どちらかというところでは落ち着いている状況ですので、ご安心いただければと思います。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和5年1月25日

出席者

(出席者署名)